

新学会に期待すること

林野庁森林整備部長 古久保 英嗣¹

このたび、森林遺伝育種学会が発足し、その活動を開始されたことに対して、心からお慶びを申し上げます。また、新学会の創設に当たっての関係者の御尽力に対して、深く敬意を表するとともに感謝申し上げたいと思います。

新学会が、森林の遺伝・育種に関する研究発表及び情報交換の場の提供、並びに広く社会への情報発信を目的として様々な活動を展開されることにより、我が国における森林遺伝学と林木育種学の一層の発展が図られ、このことを通じて、国内外の森林資源が、より深い理解に基づいて賢明に生かされるとともに、美しく豊かな姿で将来の世代に引き継ぐこととなるよう、大いに御期待申し上げます。

さて、およそ、科学、技術、芸術、文化というものは、常に一定の速度で進歩するのではなく、特定の時代や場所において、いくつかの条件が揃ったときに飛躍的に発展を遂げるもののように思われます。

その条件の第一は、明確なニーズだと思います。

人はすべからず、素朴に歌や踊りを楽しみ、料理を作りますが、宮廷や富裕層が強い欲求を示し、これに応えるものには対価を惜しまないことによって、多くの高度に洗練された芸術や文化が形作られてきました。また、何かのきっかけで潜在的なニーズが顕在化することもあると思います。鳥のように空を飛んでみたいという人類の淡い願望が、ライト兄弟の発明によって現実化し、100年後には航空機関連技術なしでは現代社会が成り立たないほどの発展を遂げています。

第二には、環境だと思います。

古代オリエントで天文学が発達したのには砂漠や半乾燥という気候条件が大いに関係したとされるようです。やはり満天の星を常に眺められる環境があつてこそ高度な発展が可能になったということでしょう。更に、近年の医療技術の急速な発達、多くの関連分野における基礎的技術の進歩という環境の変化に大きく支えられているように思います。

そして、三つ目が、人材と情報が交流し、集積される枠組みが形成されることだと思います。

箱根や小樽にはヴェネツィアングラスの美術館があり、およそ人間業とも思えないような名品を目にすることができですが、もとはと言えば、中世ヴェネツィア共和国が国策としてガラス産業を育成し囲い込んだ結果、狭い地域に工房が密集し、切磋琢磨が進んだということのようです。きっと他の分野にも、特定の集団内部での人材育成や情報交流が盛んになって、特異な発展を遂げたという例は多いに違いありません。

このような目で、我が国の森林遺伝育種学を取り巻く状況を見てみますと、まず、ニーズについては、恵まれてはいないが潜在性は高いと思います。国内の林業経済活動が長年にわたって低迷し、行財政事情も悪化して、気前の良いパトロンはいませんが、改めて人工林を主体とする国内の森林資源を循環利用していこうという機運は高まりつつありますし、森林生態系と人の様々な関係についても大いに関心が広まっています。ライト兄弟の発明ではありませんが、マツのザイセンチュウ抵抗性マツや無花粉スギに対する各界の強い反応も潜在的なニーズの現れです。エリートツリーは近年注目を浴びていますが、10年も前から研究の意義が広く知られていれば、研究開発のための資金事情ももっと違っていただかぬかもしれません。

環境についても、恵まれていないとは思いません。我が国の森林は変わらず多様で豊かですし、国内で多くの関連分野の先端技術に触れることができるほか、情報ツールの飛躍的発展により、語学のハンデは残るものの、諸外国の研究者等との情報交流も、格段に容易になっています。

最後に人材と情報の交流・集積については、正に新学会の今後の活動に期待したいと思います。

1972年に行われた林木育種協会20周年記念式典での外山三郎博士の講演によれば、FAOが当時の世界の林木育種の研究者数を調べたところ、67カ国で総数1134名のうち、1割を超える115名が我が国にいたとされています。状況の変化もあるでしょうが、現在でもそれなりの陣容が維持されており、その多くの方々が参加する新学会が、研究情報の交流と集積の中核として大きな役割を果たし

¹ ふるくぼ えいじ 林野庁森林整備部

ていくことを期待します。

また、林木育種協会が発行してきた「林木の育種」では、研究者の発表の場という機能に加えて、我が国の林木育種の進むべき道についてなど、大変良い議論が行われてきました。本分野でどのような夢が追求され得るのか、新学会が、その議論の場となり、社会への発信の拠点となることを期待したいと思います。

最後に、林野行政としても、我が国の森林遺伝育種学が大いに進展するよう、熱しやすく冷めやすいような気まぐれを排し、技術の進歩に不可欠な失敗から謙虚に学ぶ姿勢を持ちながら、新学会の期待に応える政策展開に努めてまいりたいと考えております。